

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

◆志の高いリーダーを育成する学校

「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気風に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校

○めざす学校像を示す4つのキーワード

- 1 「心を鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
- 2 「知を究める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
- 3 「人と繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
- 4 「将来を描く」…将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 令和 11 年度以降に予定されている「文理探究科」設置に向けた学校づくりの推進

- (1) 「文理探究科」のカリキュラム要件を踏まえ、「総合的な探究の時間」及び「学校設定科目」の在り方など探究型・学際型カリキュラムの研究開発を進める。
 - (2) 探究的な学びを推進するため、大学や企業、地方自治体等外部機関との連携・協力体制の構築を進め、幅広く社会資源の活用を図る。
 - (3) DXハイスクールの取組みと関連付け「文理探究科」における取組みに必要となる施設・設備、機器等について研究を進め、先行整備を行う。
 - (4) 「文理探究科」の教育内容などについて、様々な広報活動・媒体によって地域や小中学校に対し広く情報提供を行う。
- *学校教育自己診断（教職員）における意思疎通・主体性に係る項目の肯定回答率（平均）の向上（R5:80.5% R6:77.1% R7:90.7%→ R10:80%超）

2 学力育成と進路実現

(1) 学力向上に向けた取組みの推進

- ア 基礎学力調査や教育産業による学力分析システムを活用し、生徒自身が学習定着度を確認し学びに向き合う自律性を高める。
 - イ 「主体的・対話的で深い学び」を推進し、生徒の学習への動機づけを図り能動的な学習を進めるとともに、その学習保障に向けた教育環境整備に努める。
- *2年次第1回「学力実態調査」における国数英GTZ「A2」以上。[R5:A3 R6:A2 R7:A2→R10:A2維持]

(2) 教員の授業力向上

- ア 「学びの質向上委」による取組みを継続させ、生徒による授業評価も踏まえながら、学校全体で授業研究に向かう組織体制を醸成する。
 - イ ICT 機器の効果的活用の広がりも狙いとして、公開授業・研究授業の実施に継続的に取り組む。
- *学校教育自己診断（教職員）における関連項目の肯定回答率の向上（R5:96.6% R6:96.7% R7:98.3→ R10:90%超維持）

(3) 生徒個々の進路実現を叶える進路指導体制の構築

- ア 本校進路指導の全体構想「泉陽キャリアグランドデザイン(CGD)」を常に見直すとともに、教職員の共通理解を図る。
 - イ 教育産業と連携した模試・学力実態調査を経年比較できる形で実施し、その結果分析に基づいた対応を教科ごとに進める。
 - ウ 生徒のニーズに応じ、校内での講習・補習を計画的に行うとともに、教育産業による講習・ツール等の活用を図る。
- *現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合の維持（R5:35.1% R6:37.4% R7:43.9%→ R10:40%超）

3 高い志を育み、社会貢献意識の醸成に繋がる主体性の育成

(1) スローガン「進取果敢」を意識し、自らの将来像を描くためのキャリア教育の推進

- ア 外部人材を活用し、職業セミナーや大学入試説明会等を企画するとともに、自らの志望に繋がる大学訪問等を継続的に実施する。
- *学校教育自己診断（生徒）における関連項目の肯定回答率の向上（R5:67.3% R6:76.3% R7:77.0%→ R10:80%超）

(2) 学校行事等を通じた生徒の自主性・主体性の育成

- ア 生徒会活動を活性化させ、文化祭や体育祭など学校全体で取り組む行事において、生徒の主体的関与を一層図る。
 - イ 学年単位、ホームルーム単位で取り組む「合唱コンクール」や「クラスマッチ」、遠足などの各種行事において、生徒による企画運営を推進する。
 - ウ 官公庁等と連携した清掃活動・ボランティア活動等に、部活動等が中心となって取り組み全校的に広げる。
- *学校教育自己診断（生徒）における関連項目の肯定回答率の維持（R5:97.0% R6:98.6% R7:98.3%→ R10:90%超維持）

(3) 部活動の奨励と学習時間の保障

- ア 部活動への参加を奨励するとともに、活動は「部活動の在り方に関するガイドライン」に厳格に沿ったものとし、生徒の学習時間を保障する。
- *部活動加入率 90%超の維持（1年次）（R5:94.7% R6:97.2% R7:94.7%→ R10:90%超維持）

(4) 多様性を育む人権教育の推進

- ア 人権教育推進委員会を軸に作成した人権教育計画に基づき、3年間の教育活動全体を通じて人権感覚を磨き、多様性を育む。
- *学校教育自己診断（生徒）における関連項目の肯定回答率の向上（R5:90.1% R6:93.5% R7:94.3%→ R10:90%超維持）

(5) 異文化理解の深化と国際感覚の涵養

- ア 海外姉妹校等との交流を推進するとともに多様な海外研修を企画し、また海外からの生徒の受け入れなどにより国際感覚を涵養する。
 - イ 文部科学省による「トビタテ！留学 JAPAN」や「AIG 高校生外交官プログラム」などへの応募を推奨し、国際的視野に立つ意識を育む。
- *語学研修等への参加者数の安定的維持及び、海外の学校との交流の深化（R5:53名 R6:32名 R7:38名→ R10:40名程度維持）

(6) 教育相談・生徒支援体制の強化

- ア 教育相談委員会を中心に生徒支援の在り方を常に検証するとともに、SC・SSW 等の外部人材の活用や外部機関との連携強化を図る。
- *学校教育自己診断（生徒）における関連項目の肯定回答率の向上（R5:80.9% R6:84.7% R7:86.6%→ R10:90%超）

4 自律的学校運営の推進と労働安全衛生管理体制の充実

(1) 全教職員による情報共有と課題の焦点化

- ア 会議等の検討状況を逐次 Web 会議システムを活用して情報共有を図り、課題の抽出、焦点化を図るとともに、決定プロセスへの関与意識を醸成する。
- *学校教育自己診断（教職員）における関連項目の肯定回答率の向上（R5:76.3% R6:70.5% R7:88.1%→ R10:90%超）

(2) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく働き方改革の推進

- ア 校務運営について業務の見直しを行い、また ICT も活用して効率化を図る。
 - イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。
 - ウ ゆとり週間等の取組を通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する。
- *月の時間外在校時間が 45 時間を超える教職員数の縮減（R5:47人 R6:41人 R7:45人→ R10:30人）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和8年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R7年度値〕	自己評価
1 「文理探究科」設置に向けた学校づくりの推進	(1) 「総合的な探究の時間」「学校設定科目」の在り方について研究推進 (2) 「文理探究科」に必要となる施設・設備、機器等について研究推進 (3) 様々な広報活動・媒体による情報提供	(1) 「文理探究科」設置校はもとより設置予定校なども含め、先進校の取組みに学び、「総合的な探究の時間」の在り方を研究するとともに、教育課程全体を俯瞰しながら「学校設定科目」の方向性を確定する。 (2) 「文理探究科」新設校などから知見を得て、「文理探究科」における学びを想定した施設・設備や機器類について、予算実績をもとに具体的な選定を行う。 (3) ホームページやブログ記事、公式SNS等の媒体を活用し、在校生・保護者はもとより、広く地域に学校の状況・取組みを広報する。	(1) 教職員自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」の肯定率 90%以上。[88.1%] (2) 教職員自己診断「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定率 90%以上維持。[93.2%] (3) 生徒・保護者自己診断「学校は、ホームページ・ブログや連絡ツールなどで情報をよく提供」の肯定率 95%以上維持。[96.4%/98.4%]	
2 学力育成と進路実現	(1) 教員の授業力向上 (2) 生徒個々の進路実現を叶える進路指導体制の構築	(1) ア 学びの質向上委の取組みを軸に、「主体的・対話的で深い学び」を授業で実践する。 イ 授業アンケートの振り返りシートを活かし、自らの授業改善をめざす。 ウ ICT部主催の研修も踏まえ、生徒の主体性を引き出すべくICT機器を活用する。 (2) ア 本校の進路指導方針である「泉陽CGD」の共通認識を図る。 イ 学年ごとに模試結果についての学力分析会を実施し、その分析結果を踏まえ、教科としての対応・取組みを明確化する。 ウ 講習等の在り方については学校独自はもとより、教育産業の導入も検討し、効果的かつ持続可能な教科指導体制の構築を図る。	(1) ア 生徒自己診断「分かりやすく興味が持てる授業が多い」の肯定率 85%以上維持。[88.5%] イ 教員自己診断「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定率 90%以上維持。[100%] ウ 生徒自己診断「ICT機器の使用は効果的」の肯定率 90%以上。[90.3%] (2) ア 教職員自己診断「進路指導は適切に行われている」の肯定率 90%以上維持。[98.3%] イウ 現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合を 40%程度に。[43.9%]	
3 高い志を育み、社会貢献意識の醸成に繋がる主体性の育成	(1) キャリア教育の推進 (2) 学校行事等を通じた生徒の自主性・主体性の育成 (3) 異文化理解の深化と国際感覚の涵養 (4) 教育相談・生徒支援体制の強化	(1) 学部・学科調べ、職業調べ、大学説明会や大学訪問、卒業生の講話などを通して、高い志を育む。 (2) ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動で学習との両立をめざす。 イ 「自主的な学校行事」はもとより、制服や校則なども含め学校生活に対する生徒の自主的関与をさらに深める取組みを促進する。 ウ 堺市や堺警察と連携し、生徒会・部活動等によるボランティア活動や清掃活動を推進する。 エ 学年行事であるビブリオバトルや百人一首大会に加え、リーディングマラソン、「青春の短歌大会」への参加も促し、自主性とともに幅広い教養の育成をめざす。 (3) ア 海外の学校との交流や海外語学研修等を継続・発展させるとともに、姉妹校提携・訪問に向けての取組を進める。 イ 「AIG高校生外交官プログラム」等への応募を推奨する。 (4) 登校に困難を抱える生徒については、その学習状況を踏まえ、遠隔授業などの活用を含めた指導体制を工夫する。	(1) 生徒自己診断「進路指導は進路を選択する上で役立つ」の肯定率 85%以上。[91.3%] (2) ア 生徒自己診断「部活動と勉強の両立ができていいる」の肯定率 75%以上。[74.7%] イ 生徒自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の肯定率 90%以上維持。[98.3%] ウ 生徒自己診断「社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている」の肯定率 85%以上維持。[94.2%] エ 生徒自己診断「読書の習慣がある」の肯定率 50%以上。[33.5%] (3) アイ 語学研修等への参加者数を 40 名程度で一定維持する。[38 名] (4) 生徒自己診断「困りごとや相談に親身になって対応してくれる教員がいる」の肯定率 80%以上維持。[86.6%]	
4 自律的・学校運営の推進と労働安全衛生管理体制の充実	(1) 全教職員による情報共有と課題の焦点化 (2) 大阪府立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく働き方改革の推進	(1) ア 各組織や会議における取組状況について、学校掲示板の活用により情報共有を推進する。 イ 既存組織では扱い難い全校的な学校課題について、機動的に検討会議等を開催し対応する。 (2) ア 各分掌等におけるルーティン業務を見直し、削減・効率化を図る。 イ 部活動の時間・月間活動計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動とする。 ウ ゆとり週間・月間の徹底に取り組み年休取得を促進する。	(1) アイ 教職員自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」の肯定率 80%以上。[88.1%] (2) ア 年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。 イ 年間時間外在校等時間が 360 時間を超える人数を昨年度より減少させる。[31 人] ウ 年次有給休暇の平均取得日数を 16 日以上にする。[10 日 7 時間 37 分]	